

月別概況（令和5年）水産

1月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,113 円

一般近海及び小釣物では平目水揚げ多いが前年より高値保合、グレ入荷安定保合、トラフグ入荷少ないが安値、サワラ入荷安定保合、スズキ多く安値続く、赤舌、ガンゾウ入荷安定保合。青物ではサバ県内外からの入荷安定、値は振り幅が大きい。イワシ日本海からの入荷安定保合、先月に続き浜値高く入荷することが出来ない状況が続いた。県南のアジ、ブリは安定して入荷出来保合。養殖物では全般に相場は高止まり、年末年始予想より荷動きが良かったが、中旬以降はかなり鈍ってきた。ブリ類は新2年生が出荷されるまで相場は横ばい状態。太物では、ヨコ長崎、富山が中心、6Kからの大サイズは高値安定1.5~3Kの小サイズは安値安定。ビン全国的に水揚げが無い。本ヨコの小サイズで代替。カツヲ高知の1.0~2.0K小サイズが中心浜値高く売値がついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,113 円

年末に銀サケフィーレの相場が下がり数量は動いた。原料の価格は下がっていないが末端の売れ行きが鈍くキョクヨーが大幅に単価を下げた為、動きがあった。トリム関係は高値安定。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 535 円

ちりめんは高知で少し取れ、値は昨年と同じで高い。

2月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,047 円

一般近海及び小釣物では平目水揚げ多いが前年より高値保合、グレ入荷安定保合、スズキ多く安値、赤舌入荷安定保合、方々少なく高値、メイタ少なく高値、オコゼ入荷多く安値。青物ではサバ日本海からの入荷安定保合、イワシ日本海からの入荷多く保合、ハマチ県南からの入荷安定、やや高値でアジも同じく保合。養殖物ではブリ類は高値のため荷動き非常に悪い。一部の量販店では3月中旬

以降に新物に切り替えていく予定で、新物になれば値段は下げだがサイズが2K台中心となる。太物では、ヨコ高知、長崎が中心で高知は浜値高く売りがついてこない。長崎は安く仕入れることが売上にも利益にも繋がれた。ピンは全国的に水揚げが無い、カツヲ高知中心で水揚げ少なく浜値高い。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 966 円

年末からのバナメイ、ブラックタイガーの値下げにより価格は安定したが各社の安値玉も底をつき、これからは相場強含みに推移すると予想される。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 516 円

ちりめん漁が去年は無かったが今年は少し取れ、値はいつもより高い。香川県でいかなご漁が始まり少し取れ値は高い。

3月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,036 円

一般近海及び小釣り物では平目水揚げ安定保合、メバル高値保合、尺エビ・ワタリガニ少なく高値、オコゼ多く安値、赤舌多く安値。青物ではサバ（九州、日本海）からの入荷安定保合、イワシ日本海からの入荷安定保合、ハマチ・ブリ（県南・和歌山・三重）からの入荷安定。10K以上は、高値だがそれ以下は安値。丸アジ・平アジ高知から入荷安定するがどちらも安値。養殖物ではハマチ・ブリ共に高値安定相場の為、3年物の荷動き悪し、中旬ぐらいに新物2年生に推移する予定だったが、4月にずれ込みそう。また、天然物のお荷量にも売れ行は左右されそう。太物では、ヨコ（高知・和歌山）が中心で全国的に水揚げ少なく高値安定。ピンは（鹿児島・宮崎）が中心でキハダが少ない為高値。カツオ高知が中心で水揚げが多くなってきたが、浜値はなかなか下がらない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,154 円

決算月ということもあり、赤魚の相場が下げになる。同様の流れで貝柱・アジなども安値で出回る。一方で原料の少ないサゴシ・サワラは高値。ポイルホタテ・片貝は、貝毒・原貝の高値もあり、昨年を大きく上回る値がついている。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 371 円

香川と淡路で、いかなごが取れ昨年より少し値が安い。高知でちりめんの漁があり値が高い。

4月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,060 円

一般近海及び小釣物では、オコゼ多く安値、鱧水揚げ少なく良品は高値保合、平目・コチ水揚げ入荷多く下げ相場。スズキ入荷安定保合、マコカレイ・アッコ入荷安定保合。青物では、サバは（高知県・他全国）からの入荷安定、値は保合。イワシは日本海からの入荷安定するが弱保合。アジ類県南からの入荷安定、こちらは保合。ハマチ類も同様に入荷安定、月を通して横ばい、しかしブリは浜値にまったく届かなかった。養殖物では、養殖ハマチ・カンパチは先月に引き続き高値の為、荷動き無し。養殖ブリは一部新物が入荷し相場も下がったが、サイズが小さい為、売れ行きもよくない。その他養殖魚は、相場横ばいである。太物では、ヨコは徳島県産の小サイズが中心、水揚げ少ない為、安値安定。カツオは、高知が中心で水揚げが不安定な為、浜値は高め、売りがついてこなかった。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,147 円

海外真タコは、横ばいの相場が続いており、大型サイズの在庫はいまだ少ない。国産タコも横ばいの価格で、去年の同じ月と比べても値段も高く、北海道の水タコも同様である。加工品の新物価格は前年比 150 円～200 円高いと予測される。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 439 円

ちりめんの漁は、全国的に少なく値は高い。若布は、昨年より漁が少なく値も昨年より少し高い。

5月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,116 円

一般近海及び小釣りでは、平目・コチ・コショウダイ水揚げ安定保合、オコゼ・ボテやせ多く安値、イサギ入荷多く保合、チヌ水揚げ多く安値、鱧水揚げ少なく高値。青物では、サバ千葉日本海からの入荷安定するが安値、アジ・丸アジの入荷九州から安定していたが、こちらも安値。ハマチ日本海から入荷あるが安値、サワラ全国的に水揚げ少なく高値で、買付できなかった。養殖物では、養殖ハマチ・ブリともに新2年生での販売だが、やはりサイズが小さい。値下がりしたにもかかわらず売れ悪し、ブリは、3年物の引き合いが強い。その他養殖魚は、高値安定のままである。太物では、本ヨコ青森3.4kgが中心、安値安定。ビンヨコ高知中心、浜値安いが売値も安い。カツオ高知・和歌山が中心。水揚げ増えてきて、浜値もおちついてきたが、売値も下がる。暴落する日が続く。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 923 円

赤魚原料コストは、上昇しつつも相場は保合。ボイルホタテ・片貝は、貝毒の影響もあり高値。カツオタタキ近海物が豊漁の為、安値に向かうと思われま

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 652 円

ちりめんの漁は、全国的に少なく値も高い。

6月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,079 円

一般近海及び小釣りでは、鱧水揚げ少なく高値、イサギ水揚げ少なく保合、カレイ高値続く、コチ・コショウダイ入荷安定保合、平目保合、タコ下げ相場。青物では、サバ浜値高く入荷量減、競り相場はややもち直した。平アジ県南からの入荷安定で保合、イワシ日本海・千葉から入荷安定、値は月を通して保合、ハマチの浜値が高くなり入荷量が減ってきた。養殖物では、各養殖相場、横ばいも売れ行き悪し、カンパチは、在池薄、相場も高値安定のため売りも非常に悪い。太物では、本ヨコ青森4K前後が中心、浜値安く売りも良好。ビン高知・和歌山が中心、水揚げが増えてきて浜値が下がる。売りも暴落した日が続く。カツオ高知が中心で水揚げ状況によって、浜値が大きく変わり高くなった時、売りがついてこない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,148 円

アフリカのタコは、横ばいで為替次第で変わってくる。国産タコは K1600 円～K1700 円（東北～九州）K1700 円～K1900 円（瀬戸内）の相場で以前高値。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 823 円

ちりめんの漁は、全国的に取れ、値も前半は高く、後半は少し安くなった。香川と広島は煮干しは少なく値は高い。

7 月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 881 円

一般近海及び小釣りでは、鱧水揚げ少なく高値続く。マコカレイ少なく高値保合、タコ入荷安定保合、平目・コチ少なく相場少し上がる。青物では、サバ日本海から入荷安定、値は保合、。イワシ日本海から入荷安定こちらも保合。豆アジ県南からの入荷安定やや安値。ヤリイカ九州からの入荷安定、値は浜値に届かず。養殖物では、天然ツバス・ハマチの入荷が増えてきて養殖ブリ・ハマチの売れ行きが悪くなってきた。カンパチは、2年物の成長が悪く出荷サイズになっていない為、在池が厳しく、相場強含み養ダイ強含み、その他は横バイである。太物では、ヨコは青森が中心で入荷不安定。水揚げがあれば売れるが欠品する日も多かった。ビンは、高知が中心で浜値が高く、なかなか売りがついてこない。カツオは、高知が中心で全国的に水揚げが減り、浜値が上がるが売りがおいつかない日が続く。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 760 円

銀鮭、トラウトの値が少し下がり荷動きは増えた。穴子の水揚げが少なく高値が続き、加工商材もなかなか揃わない。国内のタコ高騰が続き加工するのが難しい。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 654 円

ちりめんの漁は、全国的に少なく値も高い。煮干は、昨年少ない為、今年は値も高い。

8月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,114 円

一般近海及び小釣りでは、鱧水揚げ少なく高値、マコカレイ・アッコ高値、活平目・コチ少なく高値、ボーゼサイズ小さく安値、スズキ保合、オコゼ・ワタリガニ安値。青物では、他県の浜値高く荷引ができない状況が続いた。サバなどは、関東の引き合いが強く、こちらの売り値には、まったく合わない。サバに限らず、青物全般が高く手が出せなかった。養殖物では、養殖ブリ・ハマチ共に売れ行き悪く、相場は弱含み。韓国平目は、相場強含み。カンパチは、相場横バイである。太物では、ヨコは青森が中心で、浜値は安いとやけている魚が多く当たりはずれがある。びんは和歌山が中心で、浜値が高く品揃え程度。その分、本ヨコを量販することができた。カツオは、高知・宮城が中心で、宮城の引き合いが強く、利益につなげることができた。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,331 円

中国の輸出の問題もあり、貝柱の価格が暴落、買いも慎重になり荷動きが悪い。在庫には、注意する必要がある。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 853 円

ちりめんの漁は、昨年より少し多く値も昨年より高い。

かえりと煮干しは、昨年より少なく値も高い。

9月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 981 円

一般近海及び小釣りでは、(水物)平目・コチ・マコカレイ少なく高値、タコ入荷安定保合、鱧水揚げ少なく高値。青物では、サバ入荷安定せず、浜値が高く入荷できない。荷引きしても競りにかけると安値になった。日本海からイワシの入荷安定、値は保合。アジ類も浜値高く荷引きができなかった。養殖物では、養殖ブリ類の相場は、弱含みだが売れ行きは、あまり良くない。天然物も相変わらず多く、各スーパーも利益商材として使っている事も影響している。その他養殖魚は、高値安定、売れ悪し。太物では、ヨコ全体的に水揚げ少なく、不安定。浜値も高く、売りがついてこない。ピンは、高知の小サイズが中心で、サイズが小

さすぎ、なかなか値がつかない。カツオは、宮城・高知が中心で、宮城の需要は高くなってきたが、その分高知の需要は下がる。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,153 円

国産タコの相場が高値安定で、9月まで来ており、この値が今年の相場になるかと思われる。昨年よりK150円～K200円高く原料の動きはにぶい。海外タコは、維持が少し値が上がると予想され、11月～12月に価格が変わるだろう。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 716 円

ちりめんの漁は、昨年より少し多く値も昨年より高い。

かえりと煮干しは、昨年より少なく値も高い。

10月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 960 円

一般近海及び小釣りでは、コチ・マコカレイ下げ相場、オコゼ少なく上げ相場。タコ入荷安定保合。鱧下げ相場、尺八高値、イトヨリ、高値保合。ワタリ下げ相場、ガザミ高値。青物では、サバ九州からの入荷安定保合。イワシ同じく九州から入荷、しかし安定せず、こちらも保合。サンマ北海道から少量入荷するも浜値に全く届かず。養殖物では、養殖ブリ、ハマチの相場は横ばい。サイズは夏場の高水温、餌代の高騰などで例年より小さい。天然物の入荷が非常に多く、売れ行き悪し。かんぱちは高値安定のため、売れ悪し。太物では、よこ、徳島・高知の小ヨコが中心。浜値は安い、売りも安値。びん、全体的に水揚げ不安定。小ヨコを代替にして対応。かつお、宮城・高知が中心。水揚げが減ってきたため、浜値高い。売りがついてこない日が多い。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,107 円

銀鮭原料は若干弱含みへの傾向が出てきつつある。段階的な値上げになった原料は動きが悪くなり始め、荷余り感が少し出てくる。トラウトは搬入量が少ないため、高値横ばい。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 785 円

ちりめんの漁は徳島と淡路の漁が多く、値は昨年より少し安い。煮干しとかえりは、漁が少なく値も高い。

11月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,006 円

一般近海及び小釣では、カレイ・コチ下げ相場、タコ入荷安定保合。丸ハゲ水揚げ安定、肥えてる分だけ高値、ヤセが多い。スズキ入荷安定保合。アオリ入荷少ないが、相場伸びず。青物では、さば日本海浜値高く入荷できない状況が続いた。サバだけではなく青物全般浜値高く入荷が少なかった。養殖物ではブリ類の相場弱含み。カンパチ・シマアジ・平政は横ばい。タイ・ヒラメは強含みである。ブリ類は天然物が多いのと、高知方面から養殖物が安く入荷しているため、売れ行きは良くない。太物では、よこは長崎・徳島が中心。長崎に脂がのってきて需要が高まる。びん入荷不安定。徳島の本よこの小サイズが多いため、入荷があってもなかなか値が付かない。かつおは高知が中心。寒くなり、需要がなくなってきたため、浜値と売値が合わない。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,240 円

貝柱はMより上、5 Sより下のサイズ上げ相場。S～4 Sは横ばい。サバ・赤魚・カラスカレイ主要魚種全てで上げ相場。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 930 円

ちりめんの漁は徳島と淡路の漁が多く、値は昨年より少し安い。煮干しとかえりは、漁が少なく値も高い。

12月

生鮮水産物

1kg 当たりの平均単価 1,030 円

一般近海及び小釣では、ヒラメ・コチ・カレイ・オコゼ多く下げ相場、タコ入荷安定保合。クラスズキ入荷安定保合。丸ハゲ・長ハゲ多く下げ相場。グレ・イサ

キ入荷安定保合。青物では、サバ類が先月に引き続き日本海・九州の相場が高く入荷ができなかった。他県の相場でも、遠く相場に届かなかった。日本海のブリは入荷があったがこちらも相場に届かなかった。太物では、よこは徳島が中心。サイズは8k～1k。小サイズは水揚げ多く安値。びん、高知の6k～10kが中心。キハダが高いため、年末にかけて需要が高まる。かつおは高知が中心。関東と高知の売りが強く浜値は高い。徳島で売るのに厳しい。養殖物では、ハマチ・ブリ相場横這い。カンパチは瀬戸内物で終了し、高知物に代わり上げ相場となり売れ悪し。天然ハマチも入ってきて、年末に向けて売れ行きは良くなるだろう。

冷凍水産物

1kg 当たりの平均単価 1,222 円

去年と比べてタコのセリ値は安く、夏場に固めたタコラウンドの売れ行きがよくなかった。予想以上に香川の量が多かったことが影響と思われる。安いとはいえ、k2,000円以上はする商材なので、売れ行きはそこまで良くない。

加工水産物

1kg 当たりの平均単価 704 円

ちりめんの漁は昨年より多く、値は安い。数の子・鮭は昨年より値は高い。